

ちょっと読んでみませんか（令和二年御会式）

第56話『報恩抄（ほうおんしょう）』 ～本源寺副住職 本間健司

毎年、日蓮宗の各寺院では、日蓮聖人の御命日である十月十三日に合わせて、十月（十二月にかけ）**【御会式（おえしき）】**を行います。言ってみれば、日蓮聖人の「法事」と思ってもらえれば分かりやすいでしょうか。

御会式は、各寺院によってやり方は様々ですが、どの寺院であっても、その法要のなかで必ずお読みする御文章があります。

それが、今回の題名にもなっている『**報恩抄（ほうおんしょう）**』です。

『報恩抄』は、建治二年（1276年）、日蓮聖人が55歳の時に身延山において書かれたもので、日蓮聖人の幼き頃からの師であった「道善房（どうぜんぼう）」が逝去されたため、その師への追善のために執筆された御文章です。

終生、『法華経』・御題目への信仰に入ることがなかった師に向けて、『法華経』・御題目の教理と自らの信仰体験を四巻53紙という長い文章に渡って切々と述べ、遣わせた弟子によって師の墓前で読み説かせたのです。

『報恩抄』の最後に述べられている

この功德は故道善房の聖霊の御身にあつまるべし

という言葉に、日蓮聖人の、師への深い「報恩」の想いが感じ取れます。

さて、さきほど『報恩抄』は53紙にも渡る長い御文章であると書きましたが、各寺の御会式法要のなかで、この文章全てを読むのは困難ですので、日蓮聖人の強い信仰覚悟が込められた次の一節をもって奉読し、私たちの師である日蓮聖人への報恩と信仰決意の想いをお伝えしているのです。

日蓮が慈悲曠大ならば、南無妙法蓮華経は万年の外未来までもながるべし。

日本国の一切衆生の盲目をひらける功德あり。無間地獄の道をふさぎぬ。此の功德は伝教天台にも超へ、龍樹・迦葉にもすぐれたり。極楽百年の修行は穢土の一日の功に及ばず。正像二千年の弘通は末法の一時に劣るか。是はひとへに日蓮が智のかしこきにはあらず。時のしからしむる耳。春は花さき、秋は菓なる、夏はあたらかに、冬はつめたし。時のしからしむるに有らずや。

一年に一度の大切な『御会式』で皆様と一緒に奉読する御文章ですので、今回、その現代語訳を試してみたいと思います。少しでも理解の助けになれば、そして、御題目を信仰・伝承していく決意の一助になることを祈りながら。

○『報恩抄』現代語訳(補足含む)

私 日蓮の慈悲心が独りよがりのものでなく、真に広大であつたならば、自ずと、南無妙法蓮華經の教えは末法(まっぼう)万年、そして永遠の未来に渡って途切れることなく受け継がれていくことでしょう。

なぜならば、御題目には、日本国そして世界中の全ての生命に備わる“真実の眼”を開かせる偉大なる功德があるからです。

またそれは、「無間(むげん)地獄」という最も苦しい地獄への道を塞ぐことにもつながるのです！

この偉大なる功德は、伝教大師(最澄)や天台大師の功德を超えるものであり、また、インドの偉大な僧である龍樹(りゅうじゆ)菩薩、そしてお釈迦様の直弟子である迦葉(かしよう)尊者の功德よりも優れたものなのです。

極楽“浄土”における百年の修行は、“汚れた世界”における一日の修行の功德には及びません。また、仏滅後二千年間の「正法(しょうぼう)」「像法(ぞうぼう)」と呼ばれる時代に教えを広めることは、それ以後の「末法(まっぼう)」の世において布教することに比べると容易なことです。

それはつまり、私 日蓮の能力を誇示するものではなく、乱れた時代である「末法」という《時》に生を受けた私の「使命」だということなのです。

それは、「春になると花が咲き秋には実が成る」・「夏には暖かく冬は寒い」という自然の法則とまったく同じことです。

師である道善房のおかげで自分は仏法に出会い、真実の教えである『法華經』にも巡り合えた。そして、経文と時代状況を合わせて鑑(かんが)みると、自分自身が法華題目の教えで世を救う「使命」を背負っていると自覚されました。

その「使命」をはたしていくことこそが、仏様や御両親、そして師への本当の「報恩」であると、日蓮聖人は悟られたのです。

さて、それでは、現在の《時》〓時代状況はいかがでしょうか？

この《時》に御題目を頂いている私たちは、何を祈り、どのような想いで御題目を唱えていけば良いのでしょうか？

きっと私たちのすぐそばで、日蓮聖人も一緒に唱え、導いてくれるはずです。
日蓮聖人が命がけで唱えられた御題目。その同じ「南無妙法蓮華經」を唱える私たち
なのですから。

御題目を受け継ぐ私たち一人一人の思い・実践決意：

その功德は「日蓮大聖人」の聖靈の御身にあつまるべし

そんな想いで、来年2021年、「日蓮聖人の御降誕(生誕)八百年」を迎えませんか。

合掌 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經